

もっと知りたい

武者小路実篤

さね あつ
実篤は
び じゅつ
美術コレクター!?

いつも見てじっくり楽しむ

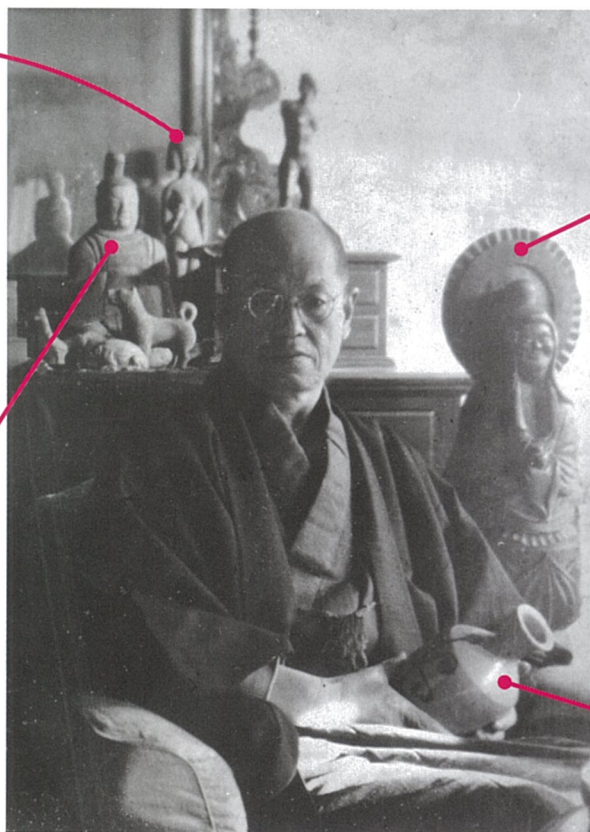
美術品は見て楽しむもの！
大事だからといってしまっておくのではなく、
いつも部屋に飾って、何度も見たんだ。



加彩木彫立像
エジプト 紀元前か
木彫・彩色



衣冠男神坐像
日本 鎌倉時代(1200年頃-1333年)か
木彫・彩色



三鷹・牟礼の家にて、愛蔵品に囲まれた実篤 昭和20年代後半(1950-55年頃)



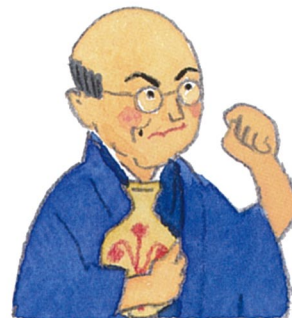
薬師如来坐像
日本 江戸時代・享和元(1801)年
木彫



鉄砂草文瓶
朝鮮半島 朝鮮王朝時代後期(1800年代)
陶磁器

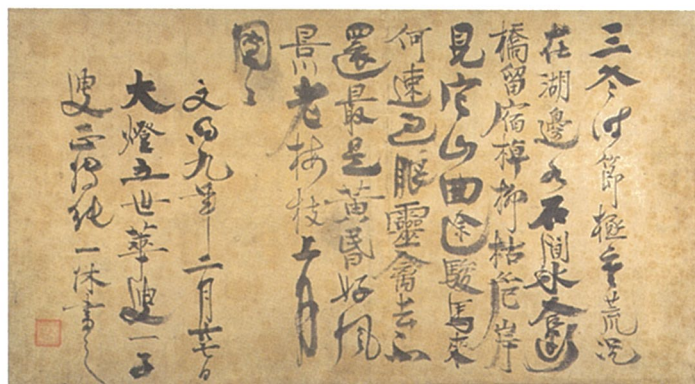
むすめ たつこ
娘の辰子が見た実篤の姿…

美術品を見ている時のパパはとても集中していました。
作品に込められた力をパパが感じ取ると、なんだか、
パパの中にある力がむくむくと盛り上がってくるようでした。



実篤は見て楽しむだけでなく、感想を書いたり、作者のことを調べて本にまとめたりしました。
時には、何度も絵に描いて形や色をじっくり味わいました。

言葉で書く！

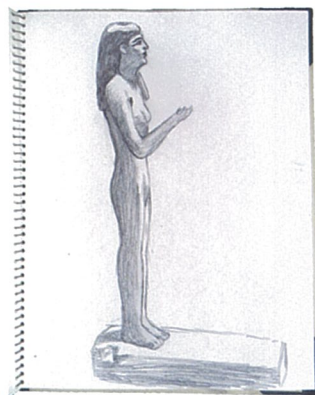


「三冬時節」 一休宗純
日本 室町時代(1400年代) 紙本墨書

この書は一休の書としては一寸風変わりで、本物ではないのではないかと買う時注意してくれた人があった・・・しかしいくら贋物だと言われても自分が好きになり、教わるものがある。僕はそれを自分では本物と言い愛蔵する。大事なものは自分の精神的糧になるかならないかだ。この書を見た時、僕の頭の中にある一休とびつたりしたものを感じた。こんなに一字一字不ぞろいな書をかく人を僕は知らない。一字一字勝手行動をしている・・・そのくせ全体として調子がとれ、一つの線に心がこもっている。

「一休「三冬」の書に就て」
『この道』昭和35(1960)年9月号

絵で描く！



スケッチブック
武者小路実篤 紙・鉛筆



エジプト木彫像
武者小路実篤
1965年 紙・鉛筆・水彩



エジプト従者像のある静物
武者小路実篤 1973年 キャンバス・油彩



エジプト従者像
紀元前か 木彫・彩色



作品を見て感動すると、
言葉や絵でかきたくなるんだ。
僕らしく表現するぞ！

本にする！



『東西大画家』 中央公論社
昭和17(1942)年発行